平成 30 年度のとりくみ

３Ｄに取り組もう

・ＤＥＳＩＧＮ・・・デザイン
・ＤＯＣＵＭＥＮＴＡＴＩＯＮ・・・ドキュメンテーション
・ＤＩＳＣＯＵＲＳＥ・・・ディスコース

≪はじめに≫

私どもの園は浄土保育「本願(とも)に生き、ともに育ちあう保育の実践」を掲げて保育していますが、その独自性は原理原則を踏まえた上で実践されなければなりません。認定こども園に移行してから 2 年が経ちましたが、今一度、国で示されています「幼保連携型認定こども園　教育・保育要領」をどれだけ実践していけるか問われてくるわけです。しかしながら、認定こども園に移行後も、国の指針に対応しきれていないというのが保育業界の実情ではないかと思えます。このまま立ち止まっていますと、いずれは社会の流れに逆行する保育になります。スポーツ界でもその体質が問題視されるようになりました。これは対岸の火事ではないように思えます。着実に内閣府からの「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を実現しようとすることが大切だと思います。その冒頭の「総則」に適う取り組みをしていこうというのが、「3D に取組もう」の趣旨であります。どうぞ、ご一読ください。

≪幼保連携型認定こども園教育・保育要領の原理原則≫　※ホームページ掲示板に掲載

○　総則について

第１章　総則とは全体を通して共通する、原理原則という意味で、基本となる考え方を示すものです。第 1 章の第１に　幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本が掲げられています。それを前提にして保育が展開していくことになります。総則の初めに、「１幼保連携型認定こども園における教育および保育の基本」という項目があります。

前文があり、（１）から（４）の項目あります。資料を添付しますのでご一読ください。

特に（４）については、従来の一斉保育では対応できないと感じています。抜粋します。

乳幼児期における発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、園児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、園児一人一人の特性や発達過程に応じ、発達の課題に則した指導を行うようにすること。①

その際、保育教諭等は、園児の主体的な活動が確保されるよう、園児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、保育教諭等は、園児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。②

なお、幼保連携型認定こども園における教育及び保育は、園児が入園してから修了するまでの在園期間全体を通して行われるべきものであり、この章の第３に示す幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項を十分に踏まえて行うものとする。

①「全体の課題から、一人一人の特性や発達の課題に則した指導を行う。」

・・・一斉保育から、一人一人に合わせた保育が求められています。

②　「園児の主体的な活動が確保されるよう、園児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。」

・・・これは環境設定保育の促進です。

先生が全体に呼びかけ、園児が同じ話を同じように聞いていくという、学校スタイルではないことがわかります。現場の先生達の仕事量もかなり多く、さらに業務の追加を繰り返していくことは、決して好ましいことではありません。量を増やすのではなく、保育の質やあり方を変えていく必要があります。

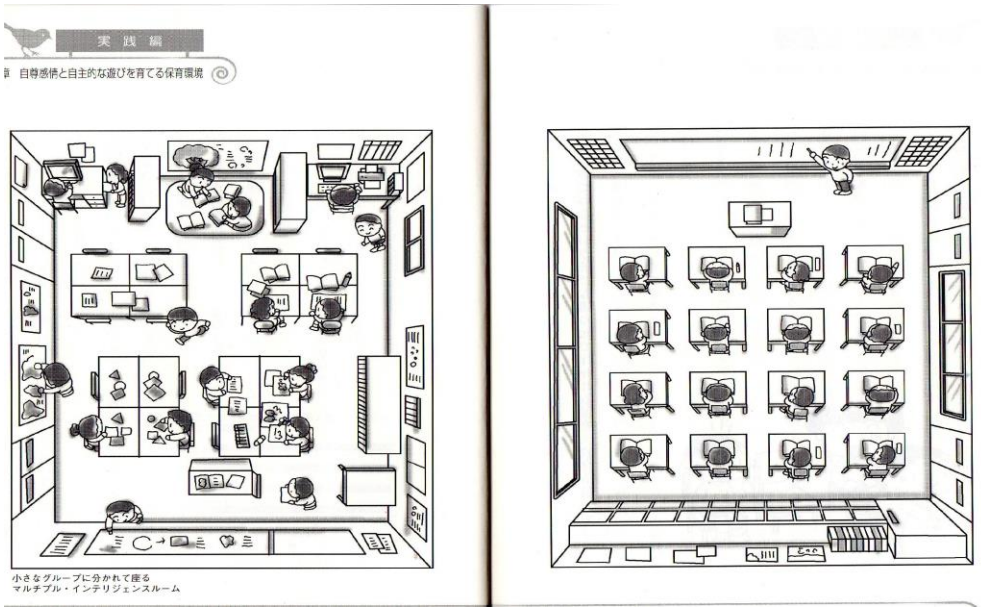
これらのことを踏まえた具体的な取り組みが必要であると考えています。

DESIGN

❶　保育環境をデザインする。

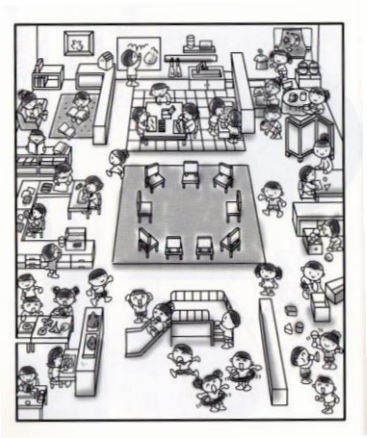
・クラスのレイアウトを考えてみよう！
～勉強部屋から、主体的な遊びの空間へ～

お配りした「子どもの自尊と自立を育てる保育環境」
P136・P137 を抜粋します。



教師からの伝達・模倣を中心とした保育環境は、右側の図（学校型）です。それに対して、子ども達が主体的に遊ぶ保育環境は、左側の図（コーナー遊び型）のようになります。

こども達の主体的な遊びには、子どもの発達に必要な遊びの領域と量が確保されていることが大切になります。園では、クラスの人数の 1.5～２倍の利用数に設定します。多すぎてもいけません。そのコーナーが一杯だったら、別のコーナーにするしかない。そのように、自らが考え選択する自由を入り口に、主体的に遊ぶということを始めたら良いのではないかというのが、ピラミッドメソッドの提案だと思います。



遊びの要素としては次のような内容を充実させることが大切です。

発達領域	コーナーと遊びの場	
	年少クラス	年中・年長クラス
個性の発達	クラスルーム 言葉コーナー 水遊びコーナー 家庭コーナー 創造コーナー	クラスルーム 言葉コーナー 水遊びコーナー 家庭コーナー 創造コーナー 遊びとワークのスケジュールボード
社会性を伴った情緒の発達	家庭コーナー	家庭コーナー ドールハウス グループ机
運動能力の発達	遊戯室 園庭 構築遊びコーナー グループ机 創造コーナー 水遊びコーナー 登り遊びコーナー	遊戯室 園庭 構築遊びコーナー グループ机 創造コーナー 水遊びコーナー
芸術的な発達	創造コーナー クラスルーム 遊戯室 園庭 音楽コーナー 言葉コーナー	創造コーナー クラスルーム 遊戯室 園庭 音楽コーナー 言葉コーナー
知覚の発達	発見コーナー グループ机	発見コーナー グループ机 コンピュータ
言葉の発達	言葉コーナー 家庭コーナー グループ机	言葉コーナー 家庭コーナー グループ机 人形劇 コンピュータ
考えることの発達	積み木コーナー グループ机 家庭コーナー 遊戯室 園庭 構築遊びコーナー 水遊びコーナー	積み木コーナー グループ机 家庭コーナー 遊戯室 園庭 構築遊びコーナー 水遊びコーナー お店 コンピュータ
時間と空間の理解	クラスルーム 遊戯室 園庭 構築遊びコーナー 日常活動セット 登り遊びコーナー	クラスルーム 遊戯室 園庭 構築遊びコーナー 日常活動セット ドールハウス コンピュータ

子どもの主体的遊びを大切にする保育では、保育環境そのものが重要なカリキュラムだと位置づけられてきます。カリキュラムは文章だけではないと教えられます。

また、内閣府のだされた「幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説（序章 P17）」の中で、次のように述べられています。

> 園児の生活は、本来、明確に区分することは難しいものであるが、具体的な生活行動に着目して、強いて分けてみるならば、食事、衣類の着脱や片付けなどのような生活習慣に関わる部分と遊びを中心とする部分とに分けられる

教室は、生活習慣の獲得にも配慮された空間でなければなりません。「分ける」ということは、なるべく干渉しあわないという意味です。そこで、私たちは、教室のレイアウトを生活同線と遊びの空間を分けることにしました。それによって、子ども達が、今の活動に集中できると考えたからです。

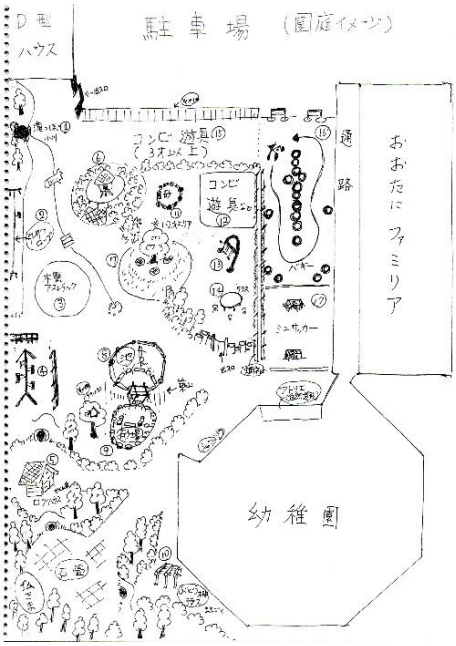
明確に区分できない場面としては、園食の時間帯です。家庭に食卓があるように、園にも食堂があれば良いのですが、スペースがありません。それで、テーブルクロスを敷き、空間の意味付けを変化させる。子ども達の意識を、遊びの場から生活の場にチェンジさせています。

4 月当初から、このようにしましたのは、あいあいクラスは環境設定保育を取り入れていて、進級によって保育の流れが断ち切られてしまわないように。また、新入園児にも早く慣れてもらえるようにと配慮させてもらいました。在園児については、昨年度の年長児のクラスで 3 月に保育スタイルを変えてみたところ、初日は 1 名ほど不安な様子でしたが、2 日目で、すべての園児が落ち着いて遊べるようになりました。たとえ、数日かかるとしても、適応は難しくはないだろうと予想しました。

今のところ、子ども達は落ち着いて遊んでいて、効果があると感じています。

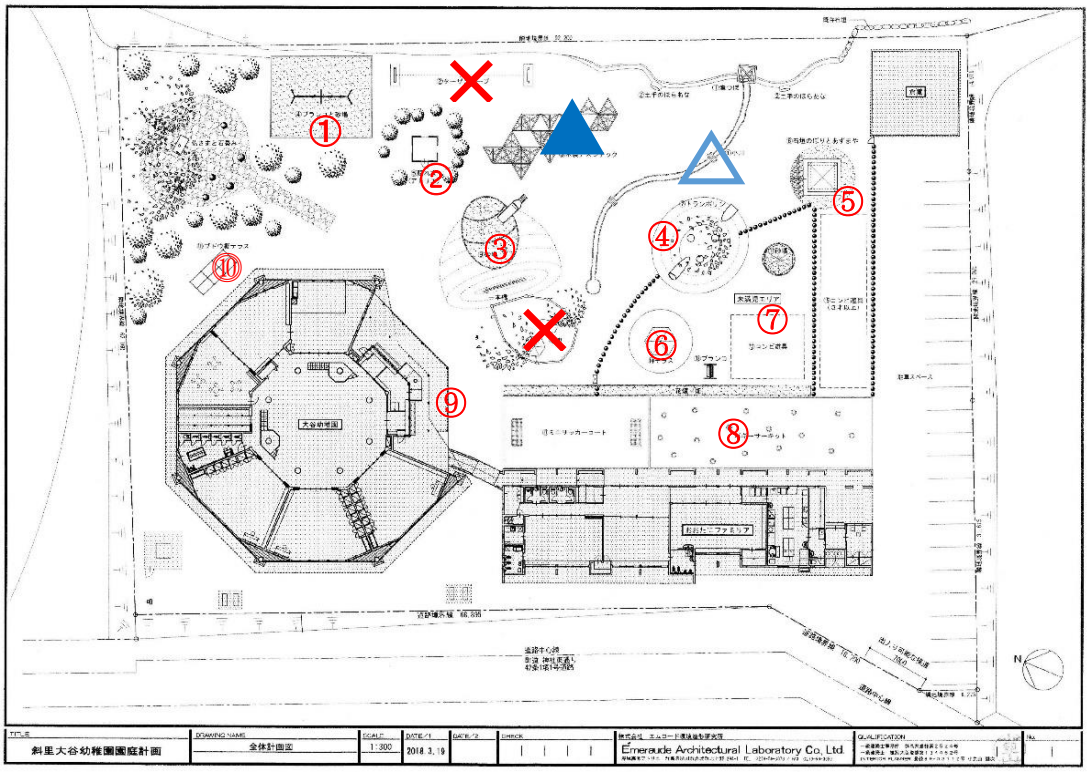
・園庭を変えよう！

～グランドから、こどもの庭へ～



園庭についても、教室と同様、主体的に様々な領域の活動が出来るよう、遊びの種類を充実させていく必要があると考えました。いろいろと調べ、秋にかけて設計をお願いしていましたが、デザインが出来上がってこなかったので、痺れを切らして、自分でイメージを描き、それを修正してもらいながらイメージを完成させる方向で計画を進めていきました。

大谷ファミリアの設計を依頼したエムロード環境造形研究所の小見山先生にイメージ化を依頼しつつ、一つ一つの遊具や遊びに関しては、外遊び・環境造形に精通し、アネビーの代理店もしているプレイネットの藤本さんにこの先の展開も相談しながら、固めていきました。園庭というのは、毎年メンテナンスをしながら、作り続けていくもの。まさに庭造りの精神だとご指導うけました。



設計士さんからの図面はこれが最後なのですが、修正以前の図面です。

△は人工川だったのですが、やはり、安全を考え水のない小石河に変更するか、遊びのスペースを遮るということでやめるか考えどころで、今回は見送ることにしました。

▲は、設計士さんが考えてくださった大型木製遊具で大変素敵なものでしたが、遊びのバリエーションと安全面を考えたときに、日本遊具の基準よりも、より明確な基準に基づいて作られている外国製木製遊具にすることにしました。高価ですが、傷んだパーツだけの交換が出来るなど、遊具自体が原因でおこる事故のメーカー保証もしっかりしています。

・上の✕は、ターザンロープです。藤本さんに「広い面積が必要だけれども、その時遊べる人数が1人なので、複数の子が遊べるようにしたほうがいいのでは」というご意見を頂き、再検討ということで、今回は保留しました。

・下の✕は、私は、水の流れを楽しんみ、泥遊びを楽しむような、ガーデニング的「じゃぶじゃぶ池」のイメージでしたが、設計段階では公園的水遊び場になっていました。自然遊びの要素が加わっていると、水かなくても春から秋まで楽しめますが、水遊びというだけでは、2・3か月の利用期間ですし、他の期間は玄関前の障害物になってしまいます。それで池は保留し、大きな簡易プールを購入することにしました。

各エリアについて

① ブランコエリアです。
ステンレス製のブランコを移動させます。古いブランコは廃棄します。

② 隠れ家です。外遊びの中でも、家的な遊びができるようにします。そこから、子ども達のストーリー性のある遊びが生まれるかもしれません。
低価格なのでパネルハウスというキッドを購入します。

③ 砂場です。砂場は今までの砂場の中に一段高いサークルをつくり、段差を設けることで、あそび場を区切ることが出来て、塩ビ管をつかった水遊び等、水の流れもあわせて遊べるようにします。

④ トランポリンエリアです。丘のうえのトランポリン。1.5m ほどの丘の上で、飛び跳ねて遊んでみます。屋内とは違った醍醐味があると思います。また、充分な脚力がないとトランポリンも捻挫の心配があります。丘のぼりが出来ない子は、勝手に使用できませんし、その他の子でも足腰がつよくなると思います。

ただ、イメージ図とことなり、大きなトランポリンが中央に埋め込まれます。トランポリンの安全スペースの基準があるらしく、周囲 1.5m 位で、3 個あると、平らな面が大きくなりすぎて、潰れた鏡餅のようになるらしいので、1 つにしました。

⑤ 石垣登り　指先の力が必要な遊びです。自然物をつかったクライミングで、上った時の達成感や、チャレンジ精神が育まれるのではないかと思います。石垣は年中後半から年長児向きだと考えています
あずまや部分はキッドを購入します。

⑥　あいあいクラスとの共有遊具　ゆりかご

どこでも人気があるらしく、年長児が 5 人から 6 人が同時に乗れるサイズのゆりかご式ブランコです。押すのは先生になりますが、年齢を問わず遊べます。異年齢の交流にも最適だと思います。

⑦　あいあいエリア

１・２歳児と３歳児以上との遊びのエリアを分け、同時に外遊びをするときや、先生が手薄のときに、安全のため遊びを制限するためにも必要なエリアです。

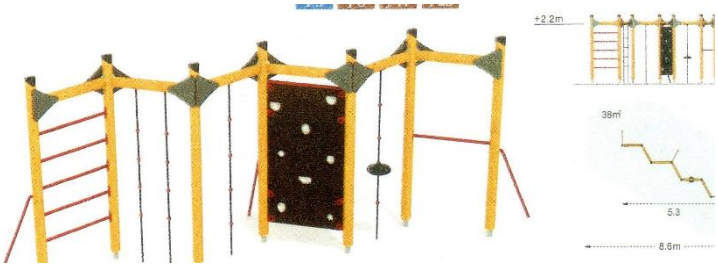
⑧　バギーコース

通常は、三輪車やバギーを乗るエリアですが、運動会時期には、マーチング等の練習にも活用できるよう考えています。また、路面にゴムチップも考えたのですが、緊急車両ようの冬場の除雪を考え、アスファルトにしました。バギーについては納品されていますし、ブログにもアップしています。ご覧いただければと思います。

右のように、タイヤなどを置いてコースをつくり、正面衝突しないように、サーキットのような雰囲気にしようと考えています。今後、信号や踏切、標識などを付け加えていくと、遊びの中で交通ルールを獲得できるのではないかと考えています。

▲　アスレチックエリア

コンビネーション遊具をつかって、身体のさまざまな部分をたくましく、しなやかに育てます



⑨　アトリエ

外遊びは、身体を動かすだけではなく、絵画や、自然物をつかった造形にも適しています。教室内では汚れがひどいことから、材料や場面が制限されやすいですが、外であれば、気軽に思い切って活動できますし、様々なものを観察しながらという利点もあります。

⑩　ぶどう棚　テラス

木の実や草花を利用した　おままごとや、子ども達がくつろげる空間も大切です。

⑨と⑩に関しては、手作りで用意していっても良いかと考えています。

施工業者は、今後のメンテナンスも考え、地元の業者であります開発工業と及川工務店さんにお願いすることにしました。詳細については、ブログ等でアップしていこうと考えています。

●　運動会について

園庭の改修により、運動会は朝日小学校をお借りすることになりました。また、運動会の日程については、小学校と日程調整し、平成 31 年度から、7 月の第 1 日曜日に開催します。また、午前午後としていましたが、午前中で終了する方向で検討しています。理由につきましては、道具の運搬や会場準備に時間がかかること。また、運動会の種目を今まで通りにすると、練習量が多く、日常保育の中で、主体的に外遊びをする時間がつくれないこと、保護者のニーズにより、多くの園が午前中に終了させている現状などです。

ご家族、親戚で昼食をとることは、とても良いことだと、昨年度までは昼食休憩をもうけ、午後の部も行いました。私自身の強いこだわりもありましたが、昨年の 6 月の運動会は、入園まもない 3 歳児には精神的にも肉体的にも負担が大きかったと痛感させられました。本番もそうですが、それに比例する練習量を振り返ってみるとき、この時期は、もっとのびのびと体を動かし遊ぶことのほうが心身ともに健康的ではないかと思いました。ご了承していただければ幸いです。

❷　保育スタイルをデザインする

・日々の生活を考えてみよう！
～同年齢と異年齢のクロスライフ保育へ～

幼保連携型こども園では、一部、異年齢ということです。
1日中、異年齢化するのではありません。完全な縦割りは、現状、ルール違反にあたります。

確認として、教育・保育要領解説（序章2の(2)）を抜粋します。

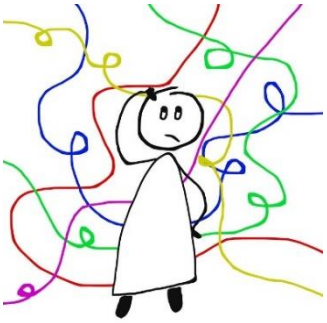
> (2)主に同年代の園児との集団生活を営む場であること
> 幼保連携型認定こども園において、園児は多数の同年代の園児と関わり、気持ちを伝え合い、ときには協力して活動に取り組むなどの多様な体験をする。そのような体験をする過程で、園児は他の園児と支え合って生活する楽しさを味わいながら、主体性や社会的態度等を身に付けていくのである。
> 特に近年、家庭や地域において園児が兄弟姉妹や近隣の乳幼児と関わる機会が減少していることを踏まえると、幼保連携型認定こども園において、同年齢や異年齢の園児同士が相互に関わり合い、生活することの意義は大きい。…省略

同年代との関わりをベースにして、異年齢との関わりも取り入れた生活。そのことを実践しようとするとき、1 日の流れの中で横の時間と縦の時間を設けていくクロスライフ保育が適切かと思うわけです。

今後、子ども達の様子を見ながら、実施のタイミングや、頻度について決めていきたいと思っています。特に初年度ですから、1 学期では、まず、自分のグループを自覚するところから始めています。運動会前にできそうなら、2 回位は試してみてもよいかと思いますが、運動会後に、徐々に増やし、2 学期から本格的に実施していく方向性で考えています。また、おさとり会時期などの一定期間、クラスに戻すなどの時期に応じた対応、子ども達の様子に合わせた弾力的な活用も必要だと考えています。

DOCUMENTATION　物語

❶　ピラミッドメソッドプロジェクトの実践



・自分たちで考えてみよう！自分たちでやってみよう！

～教え込むから、気づきの学びへ　　～

「子どもの自尊と自立を育てる保育環境（P100）」から抜粋

「私達がやっている保育は、先生がひたすら指示すること伝達することである。そこから抜け出しましょう。」と言いました。

私たちは、今の子どもの能力に合わせた保育をしていますが、彼は「本当の保育というのは、明日、子どもが到達する途上の事をしなさい」と言っています。もう、模倣と伝達はやめませんかということです。••••省略

言葉の受け止め方が難しいですが、結果を求めるのではなくて、成長過程を大事にしなさいということだと思います。

教育・保育要領「総則」第1の1の 2 段目抜粋

園児自ら安心して身近な環境に主体的に関わり、環境とのかかわり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方、考え方を生かし、その活動が豊かに展開されるよう園児と共によりよい教育及び保育の環境を創造するようつとめるものとする。•••省略

私は、以前、子ども達が試行錯誤していくプログラムはないかと探していたら、ある園長先生は、味噌づくりを勧めてくれましたが、あまり乗り気にはなれませんでした。保育領域のどこに該当するか不明でしたし、年間を通しての計画性に乏しかったからです。

なかなか該当するスキルが見つからないのです。それでピラミッドメソッドの中で体系づけられた試行錯誤プログラム･･･プロジェクトを活用することにしました。それをお手本にしながら、先生も子ども達もステップアップしていけば、独自のプロジェクトに展開するのではないかと考えています。

		年少クラス	年中クラス 1年の前半	年中クラス 1年の後半	年長クラス 1年の前半	年長クラス 1年の後半
発達領域	プロジェクト	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ
個性の発達	受け入れ	入園・進級の受け入れ方	入園・進級の受け入れ方		入園・進級の受け入れ方	
空間の理解	空間	ぼくとわたしの体	ボディ・イメージ		空間を学ぶ	
考えることの発達	色と形	おもちゃ屋さんへ行こう	スーパーへ行こう		商店街へ行こう	
時間の理解	秋	雨と風	葉っぱと種		秋の天気	
言葉の発達	家	ぼくとわたしの家	色々なお部屋		お引越し！	
社会性を伴った情緒の発達	クリスマス	ライトアップ	クリスマスのお祝い		クリスマスのお祝い	
考えることの発達	数える	くまちゃんのお誕生日		ぼくとわたしの誕生日		お祝い！
言葉の発達	衣服	何を着ようかな？		見て見て！		私はおされでしょう？
時間の理解	春	成長する！		外へ出よう		春が来た
考えることの発達	大きさ	ネズミの大きさ、ゾウの大きさ		大きくなる		旅にでよう
言葉の発達	交通	家のまわり		通園路		どうやって来る？
世界の探索	水	水と遊ぶ		家の中の水		家の外の水

プロジェクトは発達領域との関係し変化するものではないですが、テーマは、アプローチとして暮らしの中の事象を取り上げています。衣装というプロジェクトの時期になると、先生は環境を整え、子ども達の関心が高まるようにしていくのです。その中で、ファッショショーに結び付いたり、お店に展開したり、洋服に関連した事柄を膨らませていくわけです。上記の抜粋にあたると思えます。先生は環境構成から、提案から、子ども達の話し合いなど、場面によって、様々な役割を果たさなければなりません。保育技術の高い内容なので、まずは挑戦としてピラミッドメソッドの指導を受けながら、試行錯誤しながら学びを深めていくためのスキルを学んでいければと考えています。

ドキュメンテーションについては、年齢別で実施していこうと考えています。同学年で共に考えながらおこない、毎年、そのことについて考え、少しずつ深く広く考えてみるというあり方が良いと思います。

❷　子どもひとりひとりを見つめる眼

•個人記録をつけよう！

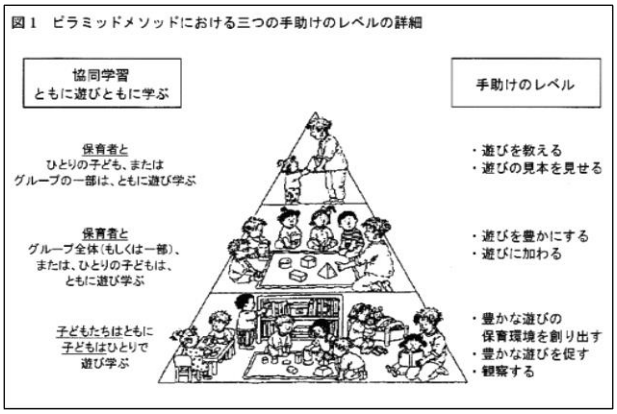
カグヤ（竹取屋）の「ミマモリングソフト」の導入と活用

担任の先生は、年齢別年間目標、月間目標、週案、日案、それぞれの反省、その他に、連絡帳や行事の準備、アルバムづくりなど、日々多くの仕事をしています。副担任の先生も、認定こども園は、11 時間が保育標準時間なので、2 号認定と預かり保育でサポートが難しい状態にあります。そのうえ、一人一人を観察し、個別の課題を見据えていくとなると、業務の簡素化が大きな課題となります。

それで、個人記録については、「ミマモリングソフト」というクラウドソフトを導入しました。セキュリティーは、一台一台のパソコンにセキュリティソフトをいれるのではなく、2 時間ごとに更新される、ルーターのところで阻止するものに変えましたので強化されています。すでに担任は 2 度の研修を受けて活用し始めています。発達領域に☑をいれていくと、その子の発達が確認できると同時に、その子の次の発達課題が抽出される仕組みになっています。さらに如何に取り組んだかのコメントを入力していくと、ベテランや先輩の対応が蓄積され、新任に相続されていく。保育簿の活きた伝承、園の保育の歴史の相続というような、メリットの多いソフトです。

さらに、このソフトには、領域ごとの発達状況、今後の課題をまとめた保育カルテという仕組みがあります（障害児検査とは別のもので、保育領域専用のソフト）。それに基づいた個人面談などを行うことで、先生と保護者が協力しながら、子どもの次のステップをサポートすることが出来るのではないかと思います。

また、ピラミッドメソッドでは、環境が整っていることが大前提ですが、遊びにおける先生の距離感を大切にします。　自立して遊んでいる子ども達については、必要以上の介入を避け観察をメインとして、その時々で甘えたくなる子には、ある程度甘えさせてあげるなど、子どもに必要な分だけ手助けしていくことで、先生達にも観察の時間が生まれてきます。



一人一人の特質にあった指導については、現状、ソフトや保育スタイルの変化によって対応していければと考えています。

DISCOURSE　対話

❶サークルタイム

子ども達の生活の中で、サークルタイムという朝の会が始まりました。今までの朝の会では、コミュニケーション能力が、中々、成長しません。「子どもの自尊と自律を育てる保育環境（p69）」から、一部抜粋します。

「私達は、このコミュニケーションの技術が未熟だと言われています。高次元のコミュニケーションです。
若い先生方は、喫茶店で 1 時間でも 2 時間でもしゃべれるけれども、保育の会合ではほとんど表現しないですね。高次元での表現、コミュニケーションを求める。それがこれからの教育者の仕事ですよという、考え方の変化です。それを、2 歳から 5 歳まで行うのです。しかも、保護者の就労を保障しながら、です。」

従来の朝の会は、「先生はしゃべる人、こども達は聞く人」をずっと繰り返しています。大人でも、会議の席や、上司の話がはじまると、うつむき、黙り込んでしまう場面を多く見かけますし、議案にそぐわない発言を連発する場面も数多く見受けられます。
しかし、社会ではその会議で決まるという大事な場面が出てきます。別のところで決めても無効なのです。そういう大事な場面でも話し合える力を高次元のコミュニケーションと言われているのだと思います。
乳幼児期から話し合う場で「相手の意見を聞く力・自分の意見を話す力」を育てていこうというのが、サークルタイムの趣旨だと理解しています。実際には、リラックスして、その日の流れを確認したり、どうしたいか相談してみたり、一人一人が発言できるような話題を投げかけて、話を広げていく時間になると考えています。

❷　保護者と共に学ぶ

どこまで学びたいかは、個人差があると思いますが、もっと良く知りたいという方もおられるかもしれません。
今後、先生と保護者が連携していく上で、同じものを見つめる必要があると考えています。　職員は年に 5 回　子どもと育ち研究所主任の宍戸信子先生をお招きして、園内研修を実施し、さらにピラミッドメソッド教師資格認定講座や、保育心理士養成講座などの研修を予定していますが、保護者の皆さまへの講演会も開催しながら、教育・保育要領の相互理解に努めていこうと考えています。講演の日時が決まりましたら、その都度、ご案内しますので、ご参加いただけたら幸いです。

参考資料を添付します。

ピラミッドメソッド幼児教育法基礎理論講座

Cito（オランダ政府教育評価機構　1999年に民営化）が開発し、1994年にオランダ政府が採用した幼児教育法です。「一人ひとりを大切にすること」「将来は自立して人生の課題を処理することができるように幼児の発達を最適化すること」を目的とし、遊びと学びを支える理論がしっかり整えられています。保育者と愛着の絆で結ばれた子どもたちは主体的に遊びを選び、学びの探索へと進める準備がなされた愛情あふれる保育室で育ちます。そこには、子どもたち一人ひとりの存在を認めて受け入れている、居心地の良い空気感が流れています。保育者のかかわり方、継続的な学びのプロジェクト、子どもに呼びかけるような環境づくりなど、すべてを「子ども自身」と「遊び」を基本にすえて展開し、保育活動一つ一つの「ねらい」を明確にしてくれるメソッドです。
テキスト『ピラミッドブック基礎編』を基にして3日間をかけて理論と実践方法をお伝えします。また、日々の保育で取り組んでいただけるよう、日本での実践例やオランダでの様子もご紹介します。
修了された方には、オランダのピラミッドメソッド本部発行の「Teacher資格修了証」をお渡しします。

01. 講義　ピラミッドメソッドの基礎理論
よき実践はよき理論から。豊富な実践内容を支える理論体系を『テキスト』をもとに解説いたします。「子どもの主体性」「保育者の主体性」「ニアネス」「ディスタンス」「養護的と教育的」「発達のサイクル」「能力と発達領域」など独特な用語ですが、日々の保育を整理するのにたいへん役に立つ理論です。

02. 講義　安心と楽しさと発見が息づく保育環境
子どもの主体性によって遊びが豊かに展開される保育室、ここから豊かな学びが生まれます。人・物・時間・空間、子どもを取り巻くすべてのものをデザイン＝整理します。

03. 講義　「プロジェクト」という遊び方・学び方
発達を踏まえ理論に裏打ちされた方法で、子どもと共にテーマを豊かに発展させながら遊びこむ。「プロジェクト」は先生と子どもの発見と楽しみをつなぎ、世界を広げます。

04. 講義　「遊び」とはなんでしょう？
「遊び」をどう整理しデザインしているか。これを知ることは、非常に価値のあることです。当たり前になっている「遊び」を今一度見つめなおすチャンスです。

05. 講義　乳児から幼児へつながる保育
子どもが安心感をもちながら、かつ主体的に園生活を送るため必要な愛着とは何か。この時期に大切な愛着、そしてどう幼児教育につながるのかを考えます。

開催日	会場	定員
2018年1月6～8日（土・日・月祝）	大阪クロススクエア（地下鉄四つ橋線本町駅 徒歩5分）	32名
2018年9月15～17日（土・日・月祝）	フォーラムミカサ・エコ（東京・神田駅 徒歩5分）	40名

時間：1日目10:00～17:00（9月15日は10:30～17:30）／ 2日目9:30～17:00 ／ 3日目9:30～16:00
2日目終了後に具体的な情報交換の場として「意見交流会」（ご希望者のみ）を行います。ご参加をお待ちしております。

受講費用：①+②+③合計
1月＝62,200円（税込）9月＝64,200円（税込）
①受講料…1月=¥43,000、9月=¥45,000（共に税込）
②国際Teacher資格登録料…¥3,000（税込）
③テキスト『ピラミッドブック基礎編（改訳版）』の料金…¥16,200(税込)（通常価格は、¥31,320（税込））
（注）③のテキストは、１団体に１冊のご購入となります。同一団体（保育園・幼稚園等）より２名以上お申込みの場合、お２人目以降の受講費用は①+②のみです。また、③を既にお持ちの場合は、テキスト料金はいただきません。

講師紹介　（主催するすべての講座の講師を務めます）

所長：宮野　亮（みやの　あきら）　1960年福岡県生まれ。北九州市立大学文学部（中退）の後、大阪府立大学総合科学部人間関係コース（心理学・社会学専攻）卒業。高校時代より野外活動リーダーをつとめ、辻井正の主宰する「おもちゃライブラリー」において障がい児療育活動とおもちゃによる保育活動をはじめる。2004年オランダCitoにてピラミッドメソッド国際普及会議に参加。2011年、子どもと育ち総合研究所所長に就任。神戸こども総合専門学院非常勤講師。

主任研究員　宍戸　信子（ししど　のぶこ）　京都生まれ。平安女学院短期大学保育科卒業（幼稚園教諭・保育士）。
幼稚園教諭として保育に没頭後、辻井正の主宰する「おもちゃライブラリー」での障がい児療育活動・おもちゃを活かした保育活動・ヨーロッパの保育との出会いを通して保育・幼児教育を学びなおす。ピラミッドメソッド・Teacher/Tutor 両資格取得。1991年「音と動きの教育（オルフ教育）」に出会い「創造的な表現あそび」を学び始め、2002～2003年にオーストリア・オルフ研究所でのインターナショナルコースに参加する。
現在は、「あそび」「おもちゃ」「保育・教育内容」「創造的な表現あそび」をテーマに、保育・乳幼児教育のあり方・関わり方についての研修・講座・WSの講師・ファシリテーターを務める。

最後に

上記のほかにも、職員の賃金改善や、内部的に副主任を設け、現場の先生の主体的に保育を考えていく仕組み、事務会計業務を分割していくなど、次世代に継承していける園になるよう努めていきます。しかし、どれだけ様々な改善をしても、新しい教育方法を取り入れても、それを使うのは人間です。･･･心を込めて、一人一人の子どもを受け止めようとする姿勢や愛情は、昔も今も、これからも、決して変わることはありません。方法論に溺れることなく、力をあわせ、心を込めて保育に精進していきますので、今後とも、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。